

第 19 回学長定例会見資料 3

平成 28 年 5 月 27 日

農学研究科と(独)農林水産消費安全技術センター(FAMIC)神戸センターによる 連携講義科目「食の安全科学・実践検査学」の開設について

農学研究科 食の安全・安心科学センター センター長 大澤 朗

食の安全と消費者の信頼の確保には、農場から食卓までのフードチェーンにおける安全性の確保とその検証が重要とされています。昨今の食のグローバル化に伴い、食品偽装、無登録農薬、遺伝組換え食品の混入などの問題が生じ、安全性の検証には高度な検査技術が必要とされています。

そこで、農学部では、食の安全の確保を担う人材育成の一環として、新規講義科目「食の安全科学・実践検査学」を開講します。同講義は、肥料、飼料等の生産資材から生鮮食品、加工食品に至る検査を法令に基づいて行う公的機関である(独)農林水産消費安全技術センター(FAMIC)神戸センターと農学研究科との連携協力協定に基づく活動の一環として企画されました。講義では、食の安全確保のための検査技術の実際、検査の社会的意義や背景について体系的に解説されます。例えば、DNA分析による遺伝子組換え食品の判定やマグロの魚種判別、安定同位体比分析によるタマネギやワカメの品種や生産地偽装の判定など、実例を踏まえた検査技術をFAMICの職員が紹介します。このような食品等の検査実務を担う第一線の公的機関との連携による講義科目の開設は国内では初めての例と思われます。

また、同科目は農学研究科「食の安全安心科学センター」の活動の一環でもあり、FAMICとの連携科目は、FAMIC神戸センターにおける分析実習のための「食の安全科学・技術演習」に次ぐ2つめの科目になります。オムニバス形式による7回の講義であり、3,4年生対象の学部共通科目です。

同科目の開設はFAMIC本部においても高く評価され、5月20日にFAMIC本部の池田理事が視察に訪れました。

【問合せ先】

神戸大学大学院農学研究科「食の安全・安心科学センター」 大澤 朗

電話: 078-503-5804

メールアドレス : tamie@opal.kobe-u.ac.jp